

ベストクラス選定理由書

作成者：石原諭

| | |
|--|--------------|
| 科目名称 社会心理学に基づく学級経営の実践開発 (担当教員名：竹西 亜古, 金綱 知征) | |
| 課 程 : 大学院 (専門職) | 開講時期 : 前期 |
| 授業形態 : 講義・演習 | 授業規模 : (10人) |
| インタビュー対象教員名 竹西 亜古 (実施日時: 8月2日(木) 14時50分~15時30分 ; 実施場所: 言語棟5階514) | |
| インタビュー対象受講者名 受講者修了のため、該当者なし (実施日時: ; 実施場所:) | |
| <p>選定理由:</p> <p>以下のような理由でベストクラス候補に選定した。</p> <p>FDでの授業評価には以下のような高評価の学生コメントがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの内容も興味深く、先生の授業はとても工夫されているように感じた。 ・「平等」とは何かなど、身近にある言葉でも、今までにある考えを改められた。 ・フェアとはなど、とても考えさせる内容が多かった。 ・学生が意見交流する機会が多く、講義での貿易ゲームは身をもってお金の怖さを知った。 <p>そして、インタビューから高評価の学生コメントを裏付ける教員側の意図が感じ取れたことである。</p> <p>以下補足として、インタビューから伺えたことを抜粋して列記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義が全体として「ストーリー」を構成するようにしている。 ・社会心理学の考え方を学級経営に応用している。 例：先生対生徒の相互作用、生徒対生徒の相互作用 行動の相互作用、心の中の変化相互影響過程、効果、逆効果 オーセンティック 例：社会の縮図、客観的、比較する、相対化する、 ・なんとなくといった勘や経験ではなく、調査などのデータに基づいて実証・検証している。 例：あそこのクラス経営はうまく行っているよ、といった感覚的・体験的なものだけではない。 行動科学的に学級経営の効果性を検証している。 こどもの自尊心、自己肯定感、意欲をどのように伸ばしていくかを調べていく。 経験の積み上げではなく、心理学の方法を用いて学問的に切り取り、検証していく。 ・具体的な「フェア」、「模擬社会ゲーム」などの教材を用いた相互に影響する授業である。 例：社会心理学にフェア、心理的公正という考え方がある。 そのフェアを学級という場面で応用していく。正義 justice とは、公正 fair とはなんだろうか。 先生が子どもに対して接していく、そのときフェアとは。給料では、選挙権では。 ・受講生がアクティブに考える工夫がされている。 演習で考えさせる。説明、考えたことについて、データに基づいた理論的説明がされる。 再度演習が行われる。実証可能な話題を3ないし4提供している。 例：「模擬社会ゲーム」 ・教員が教育実践から一步引き、教育への距離感を持っている。教師の立ち位置が明確である。 例：学級経営そのもの、教育そのものから一步引いて、 社会心理学の立場から学級経営について講義を行なう。考えるのは受講生、実践するのは受講生という立場をとる。受講生の素養になるように心がけている。 ・教員の熱意も感じられた。 | |